

2021年6月30日

需要家 各位

湘南生コンクリート協同組合



### 暑中期における生コンクリートの納入について

近年の地球温暖化による異常気象の影響により、神奈川県下においては、最高気温が35℃を超える猛暑日が多くなってきております。この影響に加えて、運搬中および待機時間における直射日光の影響やセメントの水和反応進行による発熱の影響を受け、コンクリート温度が上昇し現場荷卸し時のコンクリート温度が35℃を超える可能性が生じています。

弊協組組合員工場においても何らかの暑中コンクリート対策は実施しておりますが、決定的な対策がなく気温の上昇に伴うコンクリート温度を制御することはとても困難な状況にあります。

暑中期のコンクリートに関しては、日本建築学会「暑中コンクリートの施工指針・同解説」が2019年に改定され、コンクリートの性能が低下しないよう適切な対策を講じることにより受入時のコンクリート温度の上限値は38℃にできると記載されています。

また、JIS登録認証機関では、コンクリート温度の上限値を38℃に社内標準化することでJIS規格適合品として認めています。

弊協組組合員は、全ての工場で社内規格を改定し、JIS登録認証機関の承認を得ており、荷卸し時のコンクリート温度が38℃以下であれば、JIS規格上問題がない体制を整えています。

しかしながら、納入現場で受入基準を「35℃以下」とされている場合、工場はJIS規格適合品として品質に問題のない生コンクリートを出荷しても、現場の基準によって受け入れを拒否されることとなります。

このような状況では現場にご迷惑をお掛けする事態の発生が考えられることから、工場は生コンクリートの納入をご辞退させていただくことがありますことをご承知おきください。

また、納入温度35℃以下を指定され、現場受入れ検査においてコンクリート温度のみ不適合が発生した場合にお客様都合による戻りコンとして取り扱い、商品代と取消料の両方をご負担いただくことをご了承いただきたくお願いいたします。

近年、猛暑日が増加傾向にあり前述の状況が発生する可能性が高くなっていることから、暑中期における生コンクリートの納入に関しまして是非ともご理解とご協力をお願いいたします。

以上

参考資料：第21回（2021年）生コン技術大会研究発表論文集

「20℃及び38℃環境下におけるスランプ経時変化および凝結特性の比較に基づく暑中コンクリートのフレッシュ性状推定評価」